

進捗状況の概要【1ページ】

本事業については、構想実現に向けた教育体制の基盤構築（第一期：平成26～28年度）、基盤を活かした教育力の飛躍とスーパーグローバル大学化（第二期：平成29～32年度）、点検・評価を踏まえたスーパーグローバル大学化（第三期：平成33～35年度）の3つのフェーズに分けて構想している。

第一期（平成26～28年度）では、まずは数値目標を定めた部分について優先的に取り組むこととし、特に、「全学生に占める外国人留学生の割合増」「日本人学生に占める（単位取得を伴う）留学経験者の割合増」「学生の語学レベルの測定・把握、向上のための取組み、外国語力基準を満たす学生数増」を重点項目と定め、各種数値実績の増大や新たな時間割と柔軟な学事暦の開始、その他制度創設等に向けた具体案の策定などの成果を上げることができた。

【国際化関連】

全学生に占める外国人留学生の割合について、「ダブルディグリー・デュアルディグリープログラム」の実施、新研究科の開設などにより正規留学生の受入体制を強化した。また、短期受入プログラムを拡充し、受入留学生数は、平成29年度5月1日現在1,546人（214人増）、平成28年度通年1,894人（324人増）と毎年度着実に増大している。外国人留学生のためのサポート体制として、「明治大学グローバル選抜助成金制度」、「明治大学私費外国人留学生特別助成金制度」の新設、学生宿舎の追加借上げ、混住型宿舎の新設に向けた着実な推進などを行った。

単位取得を伴う日本人学生に占める留学経験者の割合について、学生の多様なニーズに応える形で、様々な内容のプログラムを意欲的に展開し、学部間協定留学を含めるとすでに100を超えるプログラム数となっている。特に英語能力においていわゆる中間層に属するグループの学生が留学できる協定校を開拓し、カリフォルニア大学（米国）4大学などでサマーセッション、サマースクールに参加できる大学を増やした。これらにより、平成28年度は900人（144人増）と毎年度着実に増大している。一方、世界的に評価の高い大学と協定を締結し、「海外トップユニバーシティ留学プログラム」を平成29年度から開始した。なお、単位取得に限らない海外留学経験者数については、平成25年度790人から平成28年度1,501人と大幅に増大している。留学を促進するため、平成28年度に交換留学生による本学学生への英語能力向上支援・学内での異文化体験の取組みとして「イングリッシュ・カフェ」を実施し、述べ1,000人を超える参加者があった。加えて、世界的に高い評価を得ている大学へ留学する能力がある学生を支援する方策のひとつとして「明治大学海外トップユニバーシティ留学奨励助成金制度」を創設した。

実践的な英語力の強化を図るため、「実践的英語力強化プログラム」を開講し、平成28年度の外国語基準達成者数は1,581人（941人増）となっている。

【ガバナンス改革関連】

IRデータベースを構築し、平成28年度には、学生の学習成績データに入試および進路に関するデータを組み合わせた総合学生情報データベースを構築した。国際的な質保証にあたり、国際化にかかる諸取組を含む本学の教育・研究のあり方を継続的に外部の評価対象とし、結果を分析のうえ改善に取り組むことを目的に、Times Higher Education（THE）が公表する世界大学ランキングでのランク入りを果たすべく学内関係諸機関による検討部会を立ち上げた。

【教育の改革的取組関連】

授業時間割を、「1コマ100分6講時」へ変更し、授業期間を「14週」へと短縮した。この授業時間割・授業期間の変更を機に、学事暦について各学期14週を前半と後半の7週ずつに区分（春学期をS1・S2、秋学期をF1・F2に区分）し、14週にわたる Semester 授業のほか、平行して7週で完結する授業も設置することができる柔軟な学事暦の枠組みを設定した。学生は、自身の履修を7週で完結することにより、カリキュラムの工夫次第で学期中に必修科目を配当しない期間を創り出し、より多くの短期留学、海外インターンシップ等に参加することができるようになる。さらに100分の授業を各50分でa/bふたつのモジュールに区分けする「モジュール制時間割」を導入し、モジュールの区分けを目安にした授業方法の組み合わせによる教授方法の工夫を可能にし、授業の特性に応じた柔軟な授業設計が従前に比べ容易になっただけでなく、学習効果を高めることも可能にする柔軟な時間割を構築した。

外部試験利用入試については、商学部、政治経済学部、経営学部、国際日本学部で導入している。

英語版HPにおいては、平成28年度は550万PVとなり、2年間で約8倍に増加した。

特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ】

【総合的教育改革】

平成29年度から「1コマ100分6講時」へ変更し、授業期間を「14週」へと短縮した。この授業時間割・授業期間の変更を機に、学事暦について 各学期14週を前半と後半の7週ずつに区分し、14週にわたる Semester 授業のほか、平行して7週で完結する授業も設置することができる柔軟な学事暦の枠組みを設定した。さらに 100分の授業を各50分でa/bふたつのモジュールに区分けする「モジュール制時間割」を導入し、教育力の飛躍的な向上を図るとともに教学課題を総合的に解決する改革を推進している。

【「明治大学海外トップユニバーシティ留学奨励助成金制度」の創設】

特に世界的に高い評価を得ている大学へ留学する能力がある学生を支援する方策のひとつとして、「明治大学海外トップユニバーシティ留学奨励助成金制度」を平成29年6月創設し、平成29年度から平成32年度の4年間を第一期として 総額2億円を措置した。

【世界に飛び出す100の国際プログラム】

学生の多様なニーズに応える形で、単位付与を伴う様々な内容のプログラムを意欲的に展開し、学部間協定留学を含めると 100を超えるプログラム数となっている。

【協定校数の飛躍的増大】

積極的に海外の高等教育機関等との連携を推進し海外との協定校数は平成23年の176校から平成29年3月現在 47カ国・地域299校へと飛躍的に増大した。

【「ダブルディグリー・デュアルディグリープログラム」の促進】

ノースイースタン大学（米国）ならびにテンプル大学（米国）をパートナーとする、明治大学と海外大学の学位双方が取得できる学部間「ダブルディグリー・デュアルディグリープログラム」を実施している。また、ヴィクトリア大学（カナダ）とのデュアルディグリー・プログラムを平成29年度から開始した。

【ブランド力の高い大学との連携】

スタンフォード大学（米国）、ペンシルベニア大学（米国）といった世界的に評価の高い大学と協定を締結し、「海外トップユニバーシティ留学プログラム」を開始している。

【国際認証取得に伴う教育内容の質保証】

グローバル・ビジネス研究科では、EFMDが実施し、欧州のビジネススクールにおける認証基準となっている EPA S 認証の取得を研究科の基軸目標に据え、国際標準に則った改革を行った。

【イングリッシュ・カフェの開設】

平成28年度から交換留学生による本学学生への英語能力向上支援・異文化体験の取組みとして「イングリッシュ・カフェ」を和泉国際交流ラウンジにおいて実施し、述べ1,000人を超える参加者があった。

【地域・社会と連携する混住型学生宿舎の新設】

平成30年度に建設予定の混住型学生宿舎では、近隣と連携した教育的コミュニティ・プログラムを実施し和泉キャンパスを中心としたエリアを多様で共創的な学びの場とすることを目指し準備を進めている。

【外国語ホームページの充実】

英語HP全ページの閲覧数は、平成26年度の70万PVから、平成28年度は 550万PVとなり、約8倍に増加した。大学の概要及び特徴・強みが一目で分かる10言語25トピックのPRサイト「ALL ABOUT MEIJI」、東京と大学を留学生が紹介するストーリー動画、3人の教員が最先端の研究を分かりやすいタッチで紹介するグローバル動画を制作・公開した。

【総合学生情報データベースの構築】

学生の学習成績データに入試および進路に関するデータを組み合わせた総合学生情報データベースを構築した。これにより学生の成績と進路の関係性の把握などが容易にできるようになり、教育改善に向けた議論が活性化している。

【Times Higher Education「世界大学ランキング」のランクインと学校法人格付けの取得】

「World University Rankings（世界大学ランキング）2016-2017」にランクイン（801+位）している。また、同ランキングのアジア版である「アジア大学ランキング2017」にもランクイン（251+位）している。加えて、日本版のランキングでは、全国34位、私立大学では8位にランクインした。その他、格付投資情報センターから、学校法人では 最上位の評価である「AA」の格付評価を受けた。